

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 田原口 智士

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

ウイルス学教育・研究への歩みと展望

私は、学部時代には真菌、大学院ではウイルスと対象は異なるものの、一貫して微生物学を専門に研鑽を積んできた。大学院修了後は、民間のワクチン会社、国立大学附置研究所、そして地方国立大学という多様な環境でキャリアを重ね、2008年に現在の獣医学科微生物学研究室へと赴任した。以来、一貫してウイルス学に関わる教育および研究活動に情熱を注いでいる。

ウイルス学を習得する上で最大の鍵となるのは、目に見えないウイルスの形態や複雑な構造を正確にイメージし、その増殖機序を論理的に理解することである。私の講義では、まずウイルス学の基礎知識を徹底的に身につけ、ウイルスそのものと、それが引き起こす病態について深い理解を促す。

さらに、その知識を単なる理論に留めるのではなく、伝染病学や臨床現場の実践へと有機的に結びつける指導を重視している。学生たちが獣医師国家試験に合格することはもちろん、将来の獣医療の現場で科学的根拠に基づいた判断ができる専門性を養えるよう、日々尽力している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医微生物学総論	獣医学科	必修	2	140
獣医微生物学各論Ⅱ(ウイルス)	獣医学科	必修	3	140
獣医微生物学実習Ⅱ	獣医学科	必修	3	140
卒業論文	獣医学科	必修	6	2
総合獣医学	獣医学科	必修	6	140
動物感染症学Ⅲ(ウイルス学(各論),感染症学)	獣医保健看護学科	必修	2	72
動物感染症学Ⅲ	獣医保健看護学科	必修	2	72
微生物学	動物応用科学科	必修	2	130
獣医微生物学特論	獣医学専攻	選択	1	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

ウイルスは「五界説」の分類には属さず、生物学的な定義では非生物とされる。しかし、宿主に感染することで自己複製・増殖を行うその様は、あたかも生命体のように振る舞う。多くの学生にとって、ウイルスの詳細な学習は未知の領域であり、最初は難解に感じられるかもしれない。そのため、単に教科書をなぞるのではなく、身近な事例や最新のトピックを積極的に取り入れることで、ウイルス学の奥深さを直感的に理解し、興味を持って講義に臨めるよう工夫している。

ウイルス学の根幹を成すのは「宿主特異性」の理解である。個々のウイルスが持つ宿主域を正しく把握し、細胞レベルでの変化や個体レベルでの感染・体内伝播を学ぶことは、全ての基盤となる。ここで得た知識を、後に続く公衆衛生学、伝染病学、病理学、内科学といった臨床・応用科目へと有機的に関連付け、最終的には国家試験合格へと直結する確かな学力を養成する。

卒業論文においては、ウイルスを用いた調査研究を通じ、座学で得た知識と技術の定着を徹底している。実社会で直面する課題の多くには、既成の正解が用意されていない。学生たちが自ら現象に対して疑問を抱き、その謎を解き明かす「探究のプロセス」を共に歩むことで、社会で通用する問題解決能力を育ませる。本学で培った専門性と思考力が、実社会の第一線で発揮されるよう、全力で支援していく。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

1. 講義・実習のねらい

ウイルス学において、ゲノムを構成する核酸は二本鎖DNAだけでなく、一本鎖DNA、二本鎖RNA、さらには極性（プラス鎖・マイナス鎖）の異なる一本鎖RNAなど多岐にわたる。こうした既存の生物学の枠組みを超える複雑な概念は、教科書の記述だけでは理解が困難である。そのため、私の講義・実習では以下の工夫を取り入れている。

- 「生きた知識」への変換：身近な事例や最新のウイルス関連トピックを導入として活用し、教科書の内容と実社会との接点を提示する。これにより、最終的に学生が自力で教科書を読み解けるリテラシーを養う。
- 集中力を維持する演出：教科書の内容に固執せず、適宜「学問的な小ネタ」を織り交ぜることで、学生の興味と集中力を維持させる。
- ハイブリッド形式の採用：スライドを用いた効率的な解説に加え、適宜板書を行うことで、思考のプロセスを共有する「飽きさせない講義」を展開する。
- 体系的な学習のサポート：講義は基本的に教科書の構成に沿って進めるため、予習・復習がしやすい設計としている。

2. 研究指導のあり方：自律的な思考と成長の促進

研究の場においては、以下の2点を軸に指導を行っている。

- 実践と試行錯誤の重視：まずは実際に手を動かしてみる「実践」を最優先します。失敗を単なるミスと捉えず、「なぜ失敗したのか」を自ら考え、改善策を導き出すプロセスこそ

が、研究者としての成長を最大化させる鍵であると考えている。

・対話重視の環境構築：指導者と学生が活発にディスカッションできるよう、心理的安全性の高い、オープンな研究環境づくりを徹底している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義中に内容について、学生への質問を行っている。

(2) ICTの教育活用

有

Azamoodle (LMS) を利用したミニテストや資料を作成している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

教科書には記載されていない現場で起きているトピックスや最近の知見を積極的に入れることで、学生が少しでも興味が出るような対応を心がけている。

(2) 学生の理解度の把握

B

毎回、ミニテストを行うことで、学生の理解度の把握に努めている。理解度の悪い内容については、再度復習をしている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

ミニテストを行うことで、少しは自学自習を促しているとは考えているが、充分ではない可能性も否定できない。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義後やオフィスアワーに、質問の対応を行っている。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義の合間に、質問を投げ掛けるなどを行い、集中力を途切らせないようにしている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

獣医学科学生の最重要な課題である国家試験の受験は、学生にとって非常にストレスになっている。学生への声掛け等を行うなど、必要があれば相談等を行うようにしている。また、成績不良者については、個別で指導を行うこともある。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

学生の授業評価を鑑みて、可能な限り反映するようにしている。スライド等の見難い箇所を修正し、見やすいものに変更している。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

悪いコメントは、徐々に減っている。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

スライドは、毎年見やすいように修正していく。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

卒論研究で出た結果は、学術集会への発表や論文発表できるように促している。やる気のある学生には、どんどん実験・研究ができる環境を作っている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学術集会での発表数や、論文数に反映できる。また、その発表による質疑応答を行うことで、学生も刺激になっていることが理解出来ている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FD活動には、積極的に参加している。グッドティーチング賞受賞の教員の講義を聞くことで、取り入れられる内容については積極的に取り入れるようにしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

過去に一度、グッドティーチング賞を頂いた。再度、この賞を頂けるように学生に評価される講義を行いたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。